

進捗点検結果説明資料(構成案)

本資料は、今後の進捗点検説明資料の構成案を示すために桂川を例に作成したものです。

【桂川】全体事業概要

＜桂川の治水上の目標＞

・桂川では、治水・防災対策の考え方として、平成25年台風18号洪水（羽束師4,300m³/s）を安全に流下させることを目指す。

＜令和2～4年の主な事業＞

上下流バランスを考慮しつつ、河道掘削（桂上野地区、淀木津地区にて計38,000m³）、引堤事業（大下津地区にて築堤150m）、堤防強化（久我地区にて1.4km）を実施。

・ハード整備だけでなく、まるごとまちごとハザードマップの設置やマイタイムラインの作成等、ソフト対策についても沿川自治体と調整。

・事業を推進するにあたり、環境への配慮として、ヨドゼラやオオサンショウウオの生息・繁殖環境の保全、大規模改変をふまえた河川環境のモニタリングを行ったうえで、工事の施工を実施。

・また、桂川の河道を維持するための樹木伐採や、散策に用いられる堤防天端の舗装修繕等、維持管理も適切に実施。

＜主な事業＞

○ハード整備

- ・可動式止水壁 嵐山地区
- ・河道掘削
 - 桂上野地区 17,000m³
 - 淀木津地区 21,000m³
- ・引堤
 - 大下津地区 築堤150m
- ・堤防強化
 - 久我地区 1.4km

○ソフト整備

- ・水生生物調査
- ・レンジャー活動
- ・マイ防災マップ作成
- ・まるごとまちごとハザードマップ

桂川 位置図



可動式止水壁(嵐山地区)



河道掘削(桂上野地区)

環境、土砂流出への配慮



大下津地区築堤



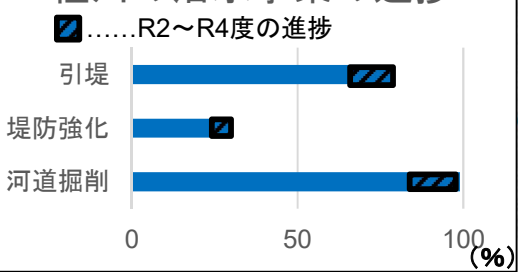
久我地区堤防強化

河道掘削(淀木津地区)

環境、土砂流出への配慮



桂川の治水事業の進捗



【桂川】治水・環境・利用等が相互に連携した河道掘削等

- 桂川では、治水、環境、維持の事業を展開。
- 主要な事業は、河道掘削であり、治水・環境・利用等の観点で相互に連携し、淀川河川事務所として事業を展開している。進捗点検における点検項目間の関連は以下の通り。

○桂川河道掘削において関連する主な点検指標(次頁で具体的な進捗を説明)

分類	点検項目	観点	指標
治水・防災	川の中で洪水を安全に流下させるための対策	河道流下能力の増大、洪水調節の効果的な実施による洪水位の提言	整備による効果
環境	河川の連続性の確保	内湾-汽水域-河川、琵琶湖-内湖・流入河川の連続性の確保	既設の堰・落差工の改良内容
環境	流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築	流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握	土砂を下流へ流すことができる砂防えん堤の設置内容・設置数(砂防施設)
環境	流域管理に向けた継続的な施策展開	生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工	生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工の実施内容・箇所
維持管理	維持管理	河川区域等の管理	河道内樹木の伐採の実施状況

【桂川】治水・環境・利用等が相互に連携した河道掘削等

○桂川における河道掘削の事業概要及び関連する指標の進捗状況は以下の通り。

事業概要

桂川の治水安全度向上のため、桂上野地区、淀木津地区において河道掘削を実施するとともに、淀木津地区、久我地区、桂上野地区において、樹木伐採を実施。



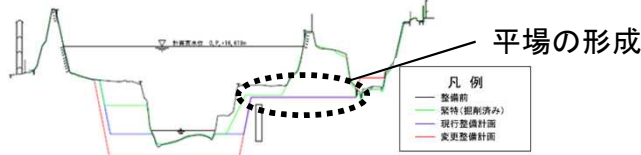
関連事業（・施策）

○平成21年度から桂川河道掘削WGにご意見をいただきながら、ヨドゼゼラの生息に適した環境での整備を計画し、令和〇年には、〇〇地区の河道掘削工事にて、〇〇地区にアンジュレーションを施し、ヨドゼゼラの生息に適したワンドたまりを再生した。



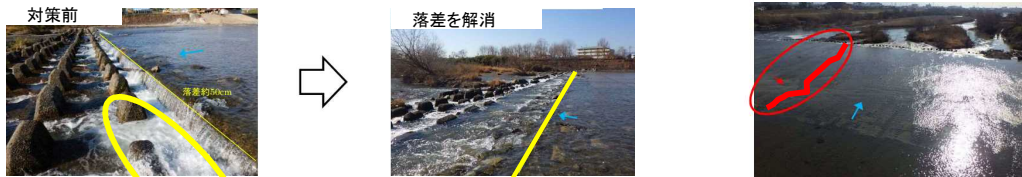
生態系・生物群集多様性の維持・回復に向けた取組
 ⇒（整備計画上の記載）
 4.2.2 多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承
 5)ヨドゼゼラの生息・繁殖環境の保全
内湾-汽水域-河川、琵琶湖-内湖・流入河川の連続性の確保
 ⇒4.2.3 河川の連続性の確保

○令和〇年～令和〇年にかけて、〇〇地区の河道掘削工事にて、土砂移動が発生しやすい水際部の形成をするために急な掘削勾配とし河岸際に平水位程度の平場を形成した。



流域の土砂生産・移動・堆積の実態把握
 ⇒4.2.3 流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築
 (2)土砂移動の連続性の確保

○令和2年にかけて、1号井堰撤去工事にて、堰撤去後に床固め下流側の落差解消のためブロックの隙間に礫を詰める対策を実施し鳥対策として床固めに溝を造成するなど、魚類の生息環境に配慮している。



生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工
 ⇒4.2.6 流域管理に向けた継続的な施策展開
 (2)生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工

【桂川】各項目に対する取組状況

<河川環境>



可動式止水壁試験施工見学会 (R1.8)

○環境に配慮した工事施工

桂上野地区ではイカルチドリの繁殖期に配慮して工事を実施した。また、嵐山地区では、景観に配慮した修景工事を行い、これまでの鉄の止水壁から、石張りをを行い、嵐山の景観に合わせた工事を実施する。
令和元年8月には、嵐山地区において、地元住民に向けて事業の理解促進のための試験施工見学会を実施した。

<人と川のつながり>



H30.10.5

○レンジャー活動

桂川では、5人の河川レンジャーにより、地域住民向けに環境、防災にかかる活動が行われている（3年間で77回実施）。平成30年10月には、梅津小学校の児童105名に対し、桂川河川敷に生息している植物の観察会等を行う、自然観察出前授業を実施した。

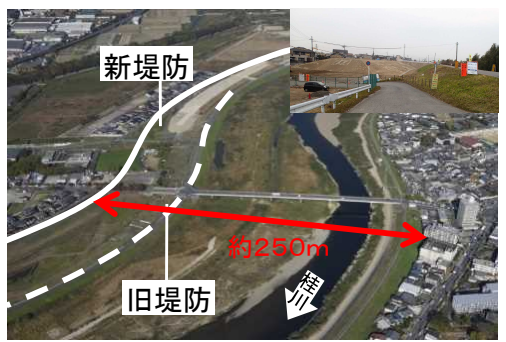
<利水>



○渇水調整の円滑化への取り組み

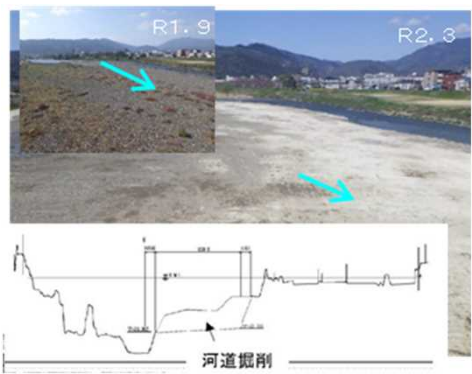
・学識者や各行政機関等を交えて、気候変動に関する研究動向や気候変動による水資源分野への影響について、情報共有・意見交換を実施した。

<治水防災>



○大下津地区引堤

治水上のネック部分である大下津地区（淀大下津町、淀水垂町、淀樋爪町）において引堤を行うことで、当該地区の流下能力を向上させるとともに上流部の水位低下を図る。大下津地区において、築堤計画の約8割が完了しており、必要な用地取得も令和2年3月に完了している。



現況の桂川は、三川のうち最も治水安全度が低く、大下津並びにその上流区間において、戦後最大の洪水である昭和28年台風13号洪水を安全に流下させることを目指して河道掘削を実施している。桂上野地区では、平成27年度より上野橋付近で河道掘削を実施。

<維持管理>



○樹木伐採（牛ヶ瀬地先）

桂川に繁茂する樹木群のうち、流下阻害となる対象樹木群や、巡視上支障となる樹木群について、優先的に伐採を実施した。
桂川全体には386千m²樹木があり、平成30年度から令和元年度にかけて38.9千m²伐採を行った。